

物流情報標準ガイドラインの概要および 活用事例のご紹介

柏木良太

株式会社野村総合研究所
社会システムコンサルティング部

空久保和史

Gaussy株式会社
WareX事業部

2022年11月10日

物流情報標準ガイドライン

■ ポイント

- 昨年、業界関係者との意見交換やパブリックコメントを経て「物流標準ガイドライン Ver1.00」を公表。それに対する反響を踏まえ、より現場に即したガイドラインとして今年「物流情報標準ガイドライン Ver2.00」に更改。
(本ガイドラインの対象が業務プロセスやメッセージレイアウト、データ項目等であることをより正確に表現するため、本改訂にて「物流情報標準ガイドライン」と名称変更)
- 「総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）」（2021年6月閣議決定）では、物流・商流データ基盤の構築をはじめとした物流標準化の推進の重要性が指摘されている。物流・商流データ基盤内外で本ガイドラインが広く活用されることで、より幅広い関係者間でのデータ連携の実現を目指している。
- Gausssy社より導入の意義やメリットについてもご説明。

■ SIPスマート物流サービスにおける標準化

背景

ソフト面において伝票や電子データ形式等が事業者毎によって異なる等の原因で、相互に円滑な情報の受け渡しがしにくく、サプライチェーン全体としての効率性が損なわれている。

目的

サプライチェーンを構成する関係者の連携・連携により物流の効率性を高め、生産性の向上に向けた環境整備の一環として個別業界ごと又は業界横断的に物流システムの標準化を実現する。

■ 標準化の検討対象

物流業務プロセス標準 (物流業務プロセスの標準化)

運送計画や集荷、入出庫、配達といった物流プロセスの流れやルールを定義する。PoC事業者が物流革新の実証実験を行った新プロセスを反映したプロセスとする。

物流メッセージ標準 (物流情報標準メッセージレイアウト)

運送計画情報や出荷情報、運送依頼情報といったメッセージを定義する。社会実装において物流・商流データ基盤を利用する際のデータ表現となる。

物流共有マスタ標準 (物流情報標準共有マスタ)

SIPスマート物流サービスの物流・商流データ基盤において、各々の業界PF（業界ごとの利用モデル）が共通で利用できるマスタを定義する。

物流情報標準ガイドラインの理念

総合物流施策大綱では、「我が国としては、世界に先駆けて提唱したSociety5.0を実現し、デジタル化とイノベーションを強化することが不可欠である。現状では、我が国のデジタル化の遅れは顕著であり、社会全体のデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進が急務となっている。近年、AIやIoT等によるイノベーションが飛躍的に進展しているが、人口減少・少子高齢化が急激に進む我が国のおかれた状況を踏まえると、こうした様々な新技術を速やかに社会実装に結びつけることで、今後の持続的な成長と国際競争力を維持していくことが必要である。その際、ダイバーシティの観点から、女性、高齢者、若者、障がい者、在留外国人等の多様な人が活躍し、交流することにより、多角的なイノベーションが促進される社会を目指すことにも留意が必要である。」としており、Society5.0の実現のためには物流に関わる全ての情報がシームレスに繋がっている状況を達成していかなければならない。その手段として、物流に関係する者の全てが標準化に取り組むことが必要不可欠であり、本ガイドラインで定めた標準化内容が普及拡大することを期待するものである。

SIPスマート物流サービスは物流・商流データ基盤の構築を目指す 本ガイドラインでは、物流・商流データ基盤内における標準形式を規定する

SIPスマート物流サービス（物流・商流データ基盤）の概要

- 「スマート物流サービス」は、「府省の枠や旧来の分野を超えた統合イノベーション戦略」として内閣府が進める「戦略的イノベーション創造プログラム第2期」（以下、SIP第2期）の対象課題の一つとして、社会実装まで目指す研究開発を進めている。
- SIP第2期「スマート物流サービス」では、主要な研究テーマの一つとして、国内の物流各社、メーカー、小売等の既存データ（生産情報、在庫情報、輸送情報、物流リソース稼働状況、販売情報等）に加え、最終的にはIoT等で得られるデータ、交通情報等の公的情報等データまで利活用可能な物流・商流データ基盤の構築を目指している。

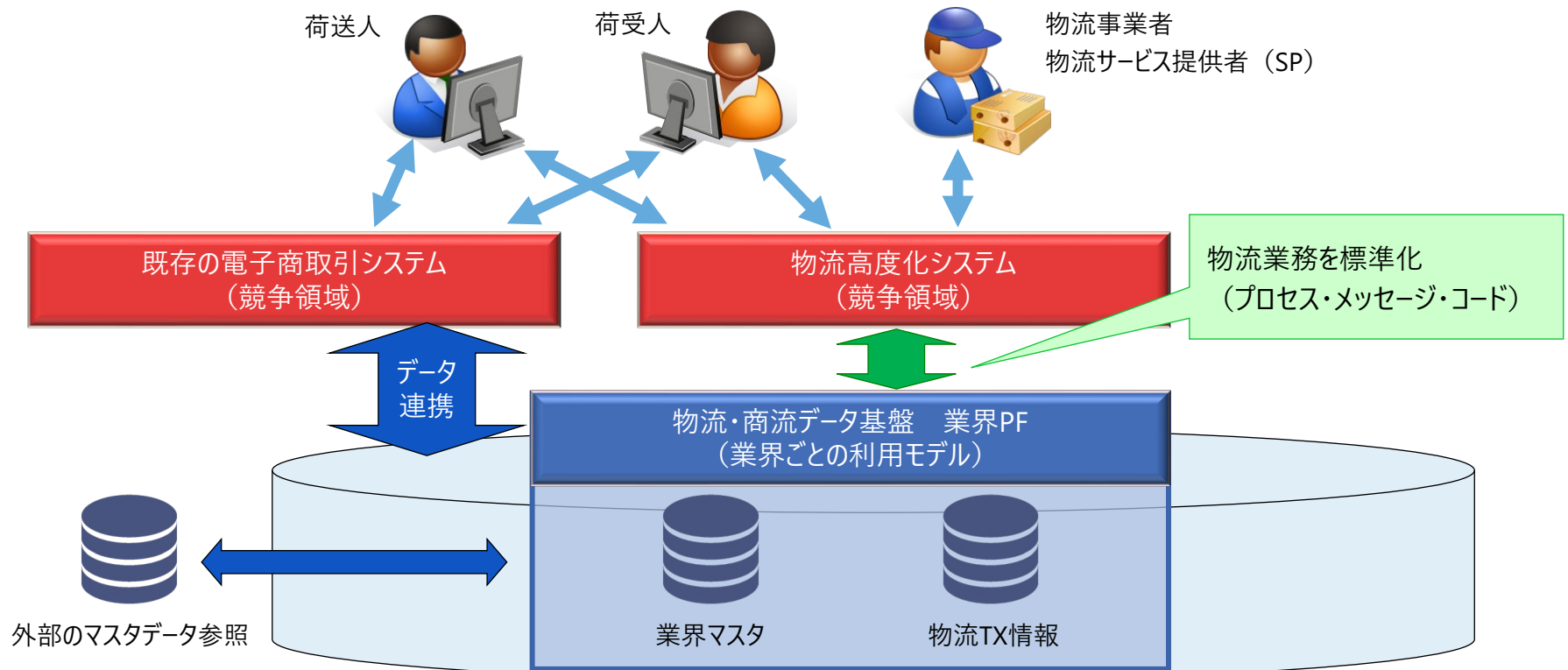
「物流情報標準ガイドライン」の目的

- 「物流・商流データ基盤」の構築では、業種等毎のサプライチェーン（SC）の特徴を生かしたオープンでセキュリティが担保された「業種等物流・商流データ基盤」の社会実装を図り、これまでより、広い範囲のデータ連携や情報共有などによる物流の効率化・生産性向上を実現するサービス（共同運送、共同保管、検品レス、バス予約等）の提供を目指している。
- 並行して、データ基盤に導入する「要素基礎技術」の一つとして「個別管理データを抽出し変換する技術（物流・商流データ基盤への提供データを独自形式から標準形式へ自動変換）」を開発し、上記の幅広いデータ連携等の促進を可能としている。
- 物流・商流データ基盤内における標準形式の規定を目的として、「物流情報標準ガイドライン」を策定した。「総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）」（2021年6月閣議決定）でも、物流・商流データ基盤の構築をはじめとした物流標準化の推進の重要性が指摘されており、物流・商流データ基盤内外で本ガイドラインが広く活用されることで、より幅広い関係者間でのデータ連携の実現を目指している。

SIPスマート物流サービスの参画者は、既存の電子商取引システムと物流・商流データ基盤を連携させて、物流の革新を実現

■ SIPスマート物流サービスに参画し、標準化に沿って物流・商流データ基盤を利用

- SIPスマート物流では、単一の物流・商流データ基盤を関係者が共同で利用する。
- 関係者が物流業務を行う際には、業界ごとの利用モデルを実装した物流・商流データ基盤（業界PF）を利用する。
- SIPスマート物流サービスに参画する際、関係者は本件で定める標準化を遵守することを原則とする。



物流情報標準ガイドラインに準拠するメリット

情報システムに関する課題を物流情報標準ガイドラインで解決

課題	主体	物流サービス提供者（SP）	物流事業者	倉庫事業者	荷送人	荷受人
情報システム未導入						
初期投資のための投資余力がない	-	-	<p>【これまで】</p> <p>システム構築のための初期投資は金銭的負荷が大きい。</p> <p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>将来的には物流情報標準ガイドラインに準拠したシステムは汎用的になるため、より低価格になると想定される。</p>	-	<p>【これまで】</p> <p>システムに対応できない物流事業者・倉庫事業者とは電子メールやFAXでやり取りを行っており、人的負荷が高い。</p>	-
ランニングコストが高む	-	-	<p>【これまで】</p> <p>各荷送人・荷受人別に対応が必要であることから、ランニングコストも大きく、投資を決めきれない。</p> <p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>物流情報標準ガイドラインに沿った事業者が増えることで、物流情報標準ガイドラインに準拠するシステムを1つ構築するだけでよくなり、ランニングコストが軽減される。</p>	-	<p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>システム構築を促すことで、荷送人・荷受人ともに負荷軽減となる。その際、物流情報標準ガイドラインに準拠したシステムを推奨することが物流事業者等の負荷軽減にもつながり、システム導入の推進につながる。</p>	-
情報システム導入済み						
データ項目、コードの整合性がとれない	-	-	-	-	-	-
人件費含むランニングコストが高む	-	-	-	-	<p>【これまで】</p> <p>トラブル発生時の対応は、都度物流事業者等に個別対応を依頼することとなる。</p> <p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>物流情報標準ガイドラインに沿った対応は物流事業者等の負荷も低く、迅速な対応につながり、システム関連のコストも下がる。</p>	-
効果が見えない/少ない	-	-	<p>【これまで】</p> <p>システム未導入企業の介在やシステム未導入フローの発生により、効果が低減する。また、各社のフォーマットが異なるためにデータを活用したサービス等の提供ができない。</p> <p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>データの統一化が図られ、共同輸送や共同保管等、物流業務の効率化に資する施策を開始することが可能となる。</p>	-	<p>【これまで】</p> <p>荷送人・荷受人は個社最適なシステムの利用を物流事業者・倉庫事業者等に要求してきた。物流業界全体の担い手減少が想定される今後、システム構築・維持の金銭的負荷やデータ項目入力の高負荷が荷送人・荷受人は、物流の担い手確保が難しくなる可能性がある。</p> <p>【物流情報標準ガイドライン利用後】</p> <p>物流事業者等は物流情報標準ガイドライン対応のシステムを構築しており、それらに準拠している事業者を優先的に対応しうる。また、SPの提供する共同輸送や共同保管等の応用的なサービスの活用も可能となり、物流業務の最適化につながる。</p>	-

業務プロセスの改革（プロセス標準の対象）

■ 標準化活動では物流事業の省力化と革新に向けて、以下の業務プロセス改革を想定して標準を定義した。

1. 共同運送（運送計画プロセス）

- 複数の荷送人の運送計画を束ねた運送計画を策定するプロセス
- プロセス改革の中心となるメッセージ定義は以下のとおり
 - 運送計画情報
 - 運送能力情報

2. 共同保管（入庫プロセス）

- 複数の寄託者の入庫予定情報を受付け、受託可否の判断を行うプロセス
- プロセス改革の中心となるメッセージ定義は以下のとおり
 - 入庫予定情報

3. 検品レス（出庫・出荷プロセス）

- 寄託者の出荷依頼を受付け、在庫引当～配達のプロセスにおいて検品レス実現のために物流が対応を行うプロセス
- プロセス改革の中心となるメッセージ定義は以下のとおり
 - 出荷依頼情報
 - 在庫引当通知情報
 - 着荷予定情報

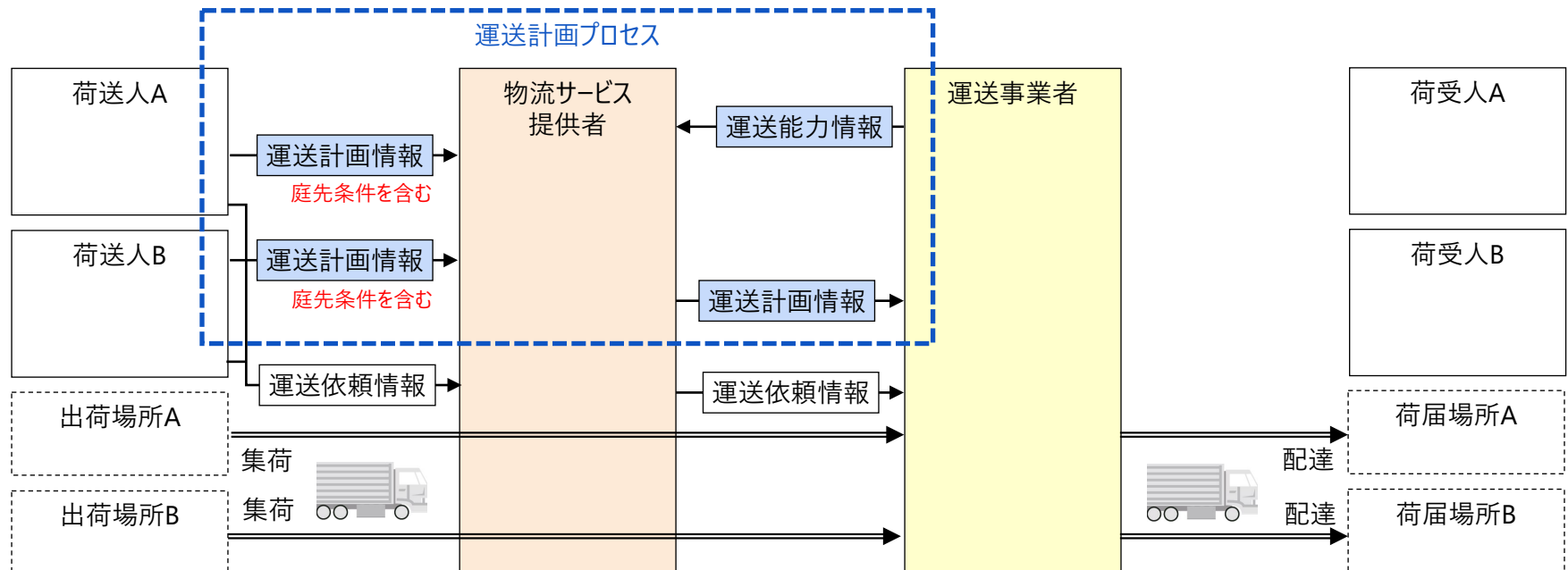
4. バース予約（配達プロセス）

- 荷送人の運送依頼を受付け、配達のプロセスにおけるバース予約を行うプロセス
- プロセス改革の中心となるメッセージ定義は以下のとおり
 - 配達指定情報

運送計画プロセスのビジネス概略フロー（物流サービス提供者が参画するケース）

■ ビジネス概略フロー

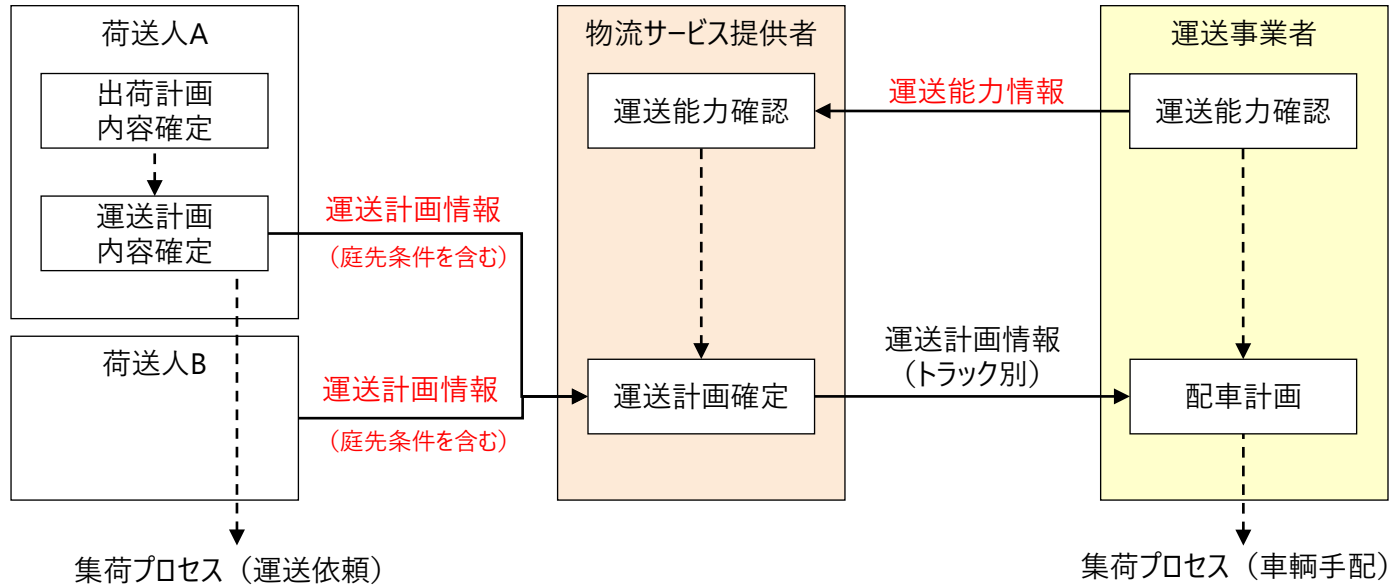
- 共同運送計画
 - 物流サービス提供者は、複数の荷送人から庭先条件を含む運送計画を受領し、運送事業者から受領した運送能力に照らして、共同運送計画を策定して提示する。
- 運送計画プロセス
 - 運送能力提示：運送事業者 ⇒ 物流サービス提供者
 - 運送計画提示：荷送人A、荷送人B ⇒ 物流サービス提供者
 - 共同運送計画提示：物流サービス提供者 ⇒ 運送事業者



運送計画プロセスのビジネス詳細フロー（物流サービス提供者が参画するケース）

■ ビジネス詳細フロー

※ 赤文字の情報は本書内にメッセージ定義を記載



■ 運用ルール

● 配車能力確認～運送能力確認

- 運送事業者は、運送能力を確認し、共同運送に供するトラックやドライバー等の「運送能力情報」を物流サービス提供者に提示する。
 - 配車能力を確認し、共同運送に供するトラック等を特定して、運送計画可能期間、車両ナンバー、集荷エリア、配達エリアおよび運送能力情報を明確にする。（運送能力を担保する期間が必要か）
 - 運送能力情報では、車格、荷台スペース、積載量、パワーゲート有無、ウイング有無、冷凍・冷蔵、ユニット、平ボディその他トラック搭載設備を定める。

（次ページへ続く）

共同運送の実現により期待される効果

■ 期待される効果

- 積載率の向上
- 配車台数の削減
- 車両滞在時間削減
- 納品作業の効率化

■ 施策の例

- 積載率の向上
 - ・ 複数の荷主からの貨物を同じ運送トラックで輸送することで、積載率を向上させる。
- 配車台数の削減
 - ・ 複数の荷主からの貨物を同じ運送トラックで輸送することで、配車台数を抑制する。
- 車両滞在時間削減
 - ・ 一貫パレチゼーション化を行うことにより、1台あたりの車両滞在時間を削減する。
- 納品作業の効率化
 - ・ 共同配送先への納品伝票を共通化することにより、作業効率化を図る。

物流情報標準メッセージレイアウトの利用方法

■ 物流情報標準ガイドライン「物流情報標準メッセージ」の利用ルール

- 物流情報標準メッセージは、物流XML/EDIのメッセージ定義及びSIPスマート物流のプロセス標準から定めたもので、主体間で情報連携を行う際のメッセージを規程したものである。
- 業務上で利用するメッセージが、物流情報標準メッセージと同じ目的のメッセージである場合は、必ず物流情報標準メッセージに従うこと。
それ以外の目的のメッセージについては、主体が必要に応じて個別に定義すること。
- 実装においては、利用者が必要とする範囲のメッセージについて物流情報標準メッセージを利用するものであり、全てのメッセージを実装する必要はない。
- また、物流情報標準メッセージで定める各メッセージのデータ項目について、「必須」と定めるデータ項目は実装する必要があるが、それ以外のデータ項目は利用者が必要に応じて取捨選択して利用してよい。
- なお、データ項目レベルでも同じ目的のデータ項目である場合は、必ず本データ項目に従うこと。（データ項目一覧参照）

物流情報標準メッセージレイアウトで定義するプロセスは、運送業務と倉庫事業者業務 (1/3)

■ 運送業務に関するプロセス定義

- 物流XML/EDI標準Ver1.20をベース

【背景色の凡例】

緑色：本件で新たに追加したサブプロセス

黄色：本資料に記載したメッセージ（革新の中心となるメッセージ）

灰色：物流XML/EDIにおいて詳細定義が割愛されているプロセス・メッセージ

分類	プロセス	サブプロセス	トランザクション	送受処理	送信者	受信者	#	情報区分コード	メッセージ名称
運送計画	運送能力提示	運送能力提示	運送能力提示	運送能力提示	運送事業者	運送サービス提供者	01	5001	運送能力情報
	運送計画提示	運送計画提示	運送計画提示	運送計画提示	荷送人、運送依頼者 運送サービス提供者	運送事業者 運送事業者	02	3012	運送計画情報（明細型）
集荷	運送依頼	運送依頼	運送依頼	運送依頼 運送依頼請け	荷送人、運送依頼者 運送事業者	運送事業者 荷送人	03 04	3001 3021	運送依頼情報 運送依頼請け情報
	標準運送送り状・標準輸送荷札発行	標準運送送り状発行 標準輸送荷札発行	標準運送送り状発行 標準輸送荷札発行	標準運送送り状発行 標準輸送荷札発行	荷送人 荷送人	運送事業者 運送事業者	05 06		(標準運送送り状) (標準輸送荷札)
	荷渡・集荷結果通知	集荷結果通知 荷渡結果通知	集荷結果通知 荷渡結果通知	集荷結果通知 荷渡結果通知	運送事業者 荷送人、運送依頼者	荷送人 運送事業者	07 08	3101 3201	集荷情報 荷渡確認情報
	配達着荷予定通知	配達着荷予定通知	配達着荷予定通知	配達着荷予定通知	運送事業者	荷受人	09	2101	着荷予定情報
	配達指定通知	配達指定通知	配達指定通知	配達指定通知	荷受人	運送事業者	10	3221	配達指定情報
運送業務	貨物受領通知	貨物受領通知	貨物受領通知	貨物受領通知	荷受人	運送事業者	11	3131	受領情報
	運送完了報告	運送完了報告	運送完了報告	運送完了報告	運送事業者 運送依頼者	荷送人、運送依頼者 荷送人	12	3121	運送完了報告情報
運送状況通知	運送状況通知	運送状況通知	運送状況通知	運送状況通知	運送事業者	荷送人、運送依頼者	13	3111	運送状況情報
運賃請求・支払	運賃請求	運賃請求	運賃請求	運賃請求通知 運賃請求確認通知	運送事業者 運賃請求先	運賃請求先 運送事業者	14 15	3802	運賃請求情報（明細型） 運賃請求確認情報（明細型）
	運賃支払	運賃支払	運賃支払	運賃支払通知	運賃請求先	運送事業者	16	3832	運賃支払情報（明細型）
運送マスター通知	配送エリアマスター通知	配送エリアマスター通知	配送エリアマスター通知	配送エリアマスター通知	運送事業者	荷送人、運送依頼者	17	3902	配送エリアマスター情報（明細型）
貨物照会	貨物照会情報	貨物照会情報	貨物照会情報	貨物照会情報	荷送人、運送依頼者	運送事業者	38	3401	貨物照会情報（明細型）
	貨物照会回答情報	貨物照会回答情報	貨物照会回答情報	貨物照会回答情報	運送事業者	荷送人、運送依頼者	39	3402	貨物照会回答情報（明細型）

物流情報標準メッセージレイアウトで定義するプロセスは、運送業務と倉庫事業者業務 (2/3)

■ 倉庫事業者業務に関するプロセス一覧

- 物流XML/EDI標準Ver1.20をベース

【背景色の凡例】

緑色：本件で新たに追加したサブプロセス

黄色：本資料に記載したメッセージ（革新の中心となるメッセージ）

灰色：物流XML/EDIにおいて詳細定義が割愛されているプロセス・メッセージ

分類	プロセス	サブプロセス	トランザクション	送受処理	送信者	受信者	#	情報区分 コード	メッセージ名称
倉庫 事業者 業務	入庫	入庫予定	入庫予定	入庫予定提示	寄託者	倉庫事業者	18	4101	入庫予定情報
				入庫予定回答	倉庫事業者	寄託者	19		(入庫予定回答情報)
		入庫報告	入庫報告	入庫報告	倉庫事業者	寄託者	20	4121	入庫報告情報
				入庫機番報告	倉庫事業者	寄託者	21	4042	機番報告情報（明細型）
	出庫・出荷	出荷依頼	出荷依頼	出荷依頼	寄託者	倉庫事業者	22	4001	出荷依頼情報
				出庫依頼請け	倉庫事業者	寄託者	23		(出荷依頼請け情報)
			在庫引当通知	在庫引当通知	倉庫事業者	寄託者	24	4031	在庫引当通知情報
		出荷着荷予定通知	出荷着荷予定通知	出荷着荷予定通知	倉庫事業者	荷受人	09	2101	着荷予定情報
		出庫報告	出庫報告	出庫報告	倉庫事業者	寄託者	25	4021	出庫報告情報
				出庫機番報告	倉庫事業者	寄託者	21	4042	機番報告情報（明細型）
	流通加工	流通加工依頼	流通加工依頼	流通加工依頼	寄託者	倉庫事業者	26	4201	流通加工依頼情報
				流通加工依頼請け	倉庫事業者	寄託者	27		(流通加工依頼請け情報)
		流通加工報告	流通加工報告	流通加工報告	寄託者	倉庫事業者	28	4221	流通加工報告情報
	名義変更	名変出庫	名変出庫	名変出庫依頼	寄託者	倉庫事業者	22	4001	出荷依頼情報
				名変出庫報告	倉庫事業者	寄託者	25	4021	出庫報告情報
		名変入庫	名変入庫	名変入庫依頼	先寄託者	倉庫事業者	18	4101	入庫予定情報
				名変入庫報告	倉庫事業者	先寄託者	20	4121	入庫報告情報
	在庫報告・調整	在庫報告	在庫報告	在庫報告	倉庫事業者	寄託者	29	4302	在庫報告情報（明細型）
在庫差異報告				寄託者	倉庫事業者	30	4312	在庫差異報告情報（明細型）	
在庫調整報告				倉庫事業者	寄託者	31		在庫調整報告情報（明細型）	
在庫調整		在庫調整	在庫調整承認	寄託者	倉庫事業者	32		在庫調整承認情報（明細型）	

物流情報標準メッセージレイアウトで定義するプロセスは、運送業務と倉庫事業者業務 (3/3)

■ 倉庫事業者業務に関するプロセス一覧

- 物流XML/EDI標準Ver1.20をベース

【背景色の凡例】

緑色：本件で新たに追加したサブプロセス

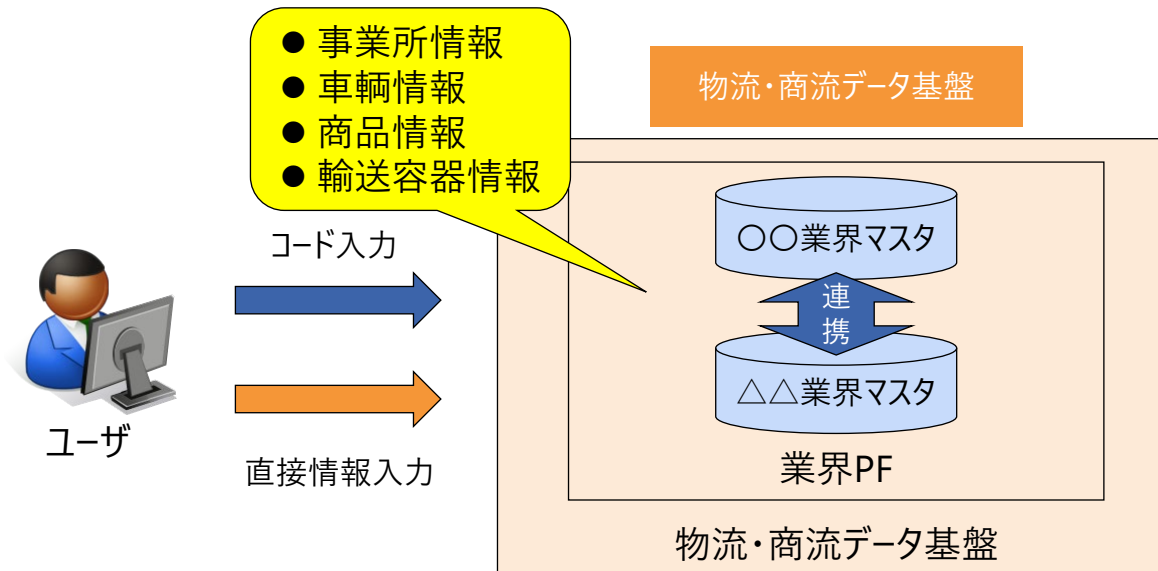
黄色：本資料に記載したメッセージ（革新の中心となるメッセージ）

灰色：物流XML/EDIにおいて詳細定義が割愛されているプロセス・メッセージ

分類	プロセス	サブプロセス	トランザクション	送受処理	送信者	受信者	#	情報区分 コード	メッセージ名称
倉庫 事業者 業務	倉庫事業者料金請求・支払	倉庫事業者料金請求	倉庫事業者料金請求	倉庫事業者料金請求通知	倉庫事業者	倉庫料金請求先	33	4812	倉庫事業者料金請求情報（明細型）
		倉庫事業者料金請求確認	倉庫事業者料金請求	倉庫事業者料金請求確認通知	倉庫料金請求先	倉庫事業者	34		倉庫事業者料金請求確認情報（明細型）
		倉庫事業者料金支払	倉庫事業者料金支払	倉庫事業者料金支払通知	倉庫料金請求先	倉庫事業者	35	4841	倉庫事業者料金支払情報（明細型）
	倉庫事業者マスター通知	品名マスター通知	品名マスター通知	品名マスター通知	寄託者	倉庫事業者	36	4902	品名マスター情報（明細型）
		荷届先マスター通知	荷届先マスター通知	荷届先マスター通知	寄託者	倉庫事業者	37	4912	荷届先マスター情報（明細型）
	在庫照会	在庫照会情報	在庫照会情報	在庫照会情報	寄託者	倉庫事業者	40	4401	在庫照会情報（明細型）
在庫回答情報		在庫回答情報	在庫回答情報	倉庫事業者	寄託者	41	4402	在庫回答情報	
受発 注業 務	納品	事前納品通知	事前納品通知	事前納品通知	荷送人 倉庫事業者（経由）	倉庫事業者（経由） 荷受人	51	6001	事前納品通知情報（納品伝票情報のみ）
							52	6002	事前納品通知情報（輸送情報あり）
							53	6003	事前納品通知情報（輸送情報・ユニット情報あり）
		納品確認通知	納品確認通知	納品確認通知	荷受人	荷送人 倉庫事業者	55	6011	納品確認通知情報

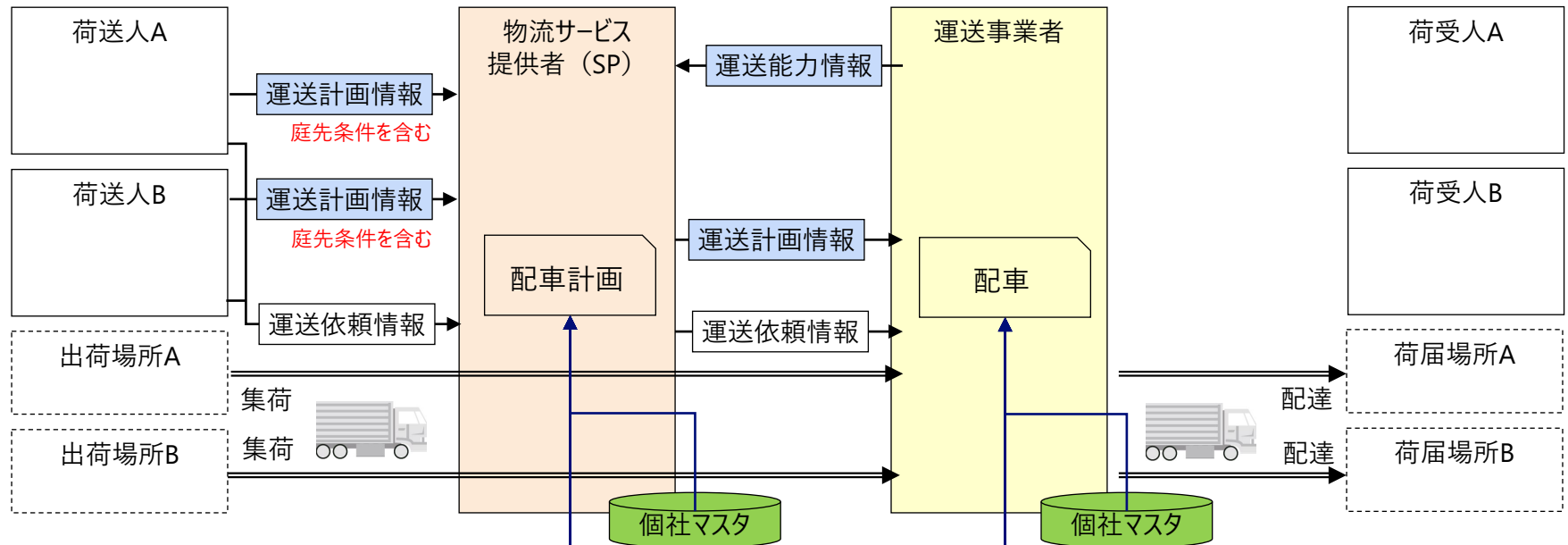
4つのマスタ / レジストリのデータ標準化を実施

- 事業所情報、車輛情報、商品情報の3つのマスタと、輸送容器情報の1つのレジストリのデータ標準化を規定している。
- 業界マスタで保有するマスタ・レジストリでは、可能な範囲で本規定に従ったマスタデータの項目定義とすることで、将来的には他の業界マスタとの連携が可能となる。

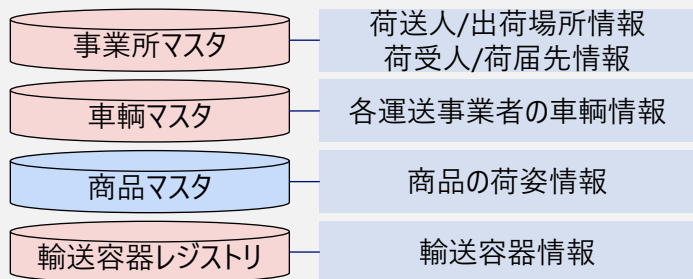


4つのマスタ/レジストリの活用イメージ：共同運送の場合

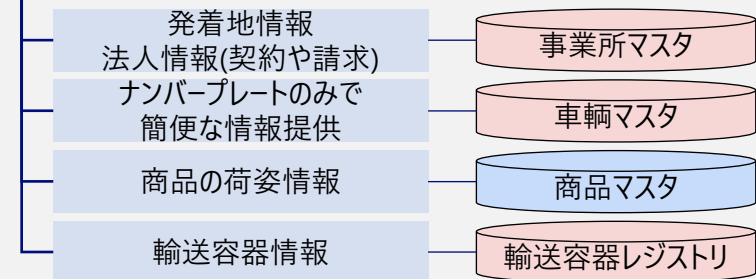
- SP・運送事業者が3つのマスタと1つのレジストリから共同運送に必要な情報を取得することで、効率的な共同運送が可能となる



正確な配車や積載の実現



効率的な運送業務の実現



採用団体の拡大

物流情報標準ガイドライン準拠企業（準備中企業含む）



WareX

Gaussy株式会社



Hacologi

中西金属工業株式会社



telesa-delivery

株式会社TSUNAGUTE

物流情報標準ガイドライン

-ver.2.00-



桃太郎便
AZ-COM

株式会社丸和運輸機関



ascend株式会社



SmartBarcode®

特許取得済

株式会社LOZI

DoCoMAP

株式会社ドコマップジャパン

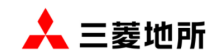
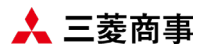
物流系SPを中心にデータ基盤外でも普及拡大中

Gaussy株式会社について

Gaussy株式会社は物流DXを推進する2つのサービスを展開
2022年7月1日付で、三菱商事からカーブアウト

創業株主

Series A パートナー



50.1%



フレキシブルな物流で、 ビジネスに選択肢を提供する。

ECマースの急速な拡大により、物流が担う役割は拡張し続けています。

日々大きく変動する需給ギャップ。しかし現状、それに的確に対応するための選択肢は非常に少ない。

それが物流におけるビジネスの可能性を狭めていると私たちは考えます。

私たちは、倉庫運用の仕組みをモジュール化し、

すべての企業が利用できる標準的な倉庫サービスを提供します。

新しいテクノロジーやビジネスモデルを使って、

日々変化するニーズにフレキシブルに応えられる物流を実現していくのです。

物流に携わるすべての会社が、制約に囚われず自由に意思決定できる世界へ。

私たちは、今までにないビジネスの一手を生み出し続けていきます。

Gaussy株式会社について

月額制倉庫ロボットサービス

The logo for Roboware features the word "Roboware" in a bold, black, sans-serif font. Above the letter "o" is a red, stylized roof-like shape.

Roboware は、小規模から始めて、必要な台数を運用できる月額制倉庫ロボットサービスです。

倉庫ロボットのハードウェアだけではなく、ロボットを動かす独自のソフトウェアや、ハード・ソフトの保守、導入から運用まで、最新のロボットをつかった倉庫運営をトータルでサポートします。

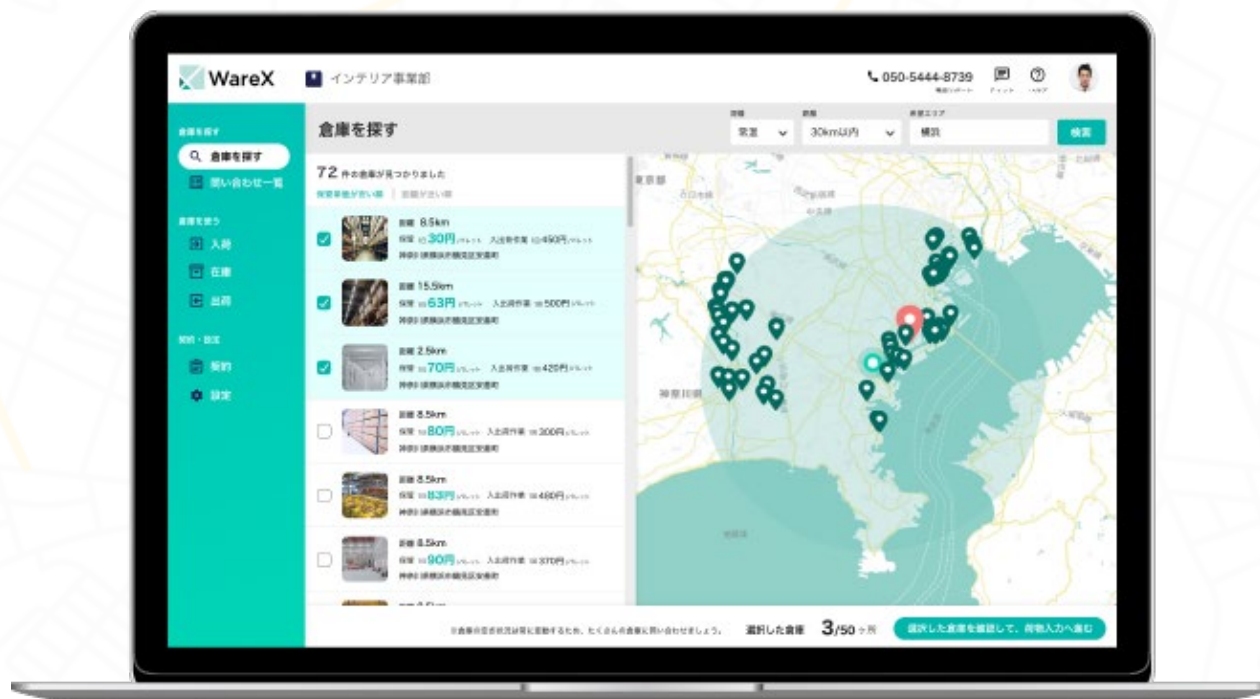
倉庫シェアリング型寄託サービス

The logo for WareX consists of a teal square icon with a white diagonal line forming an 'X' shape, followed by the word "WareX" in a bold, black, sans-serif font.

WareXは価格や場所を見ながらの倉庫検索・引き合いから、入出荷作業・請求業務のオペレーションまでオンラインで完結する寄託倉庫サービスです。

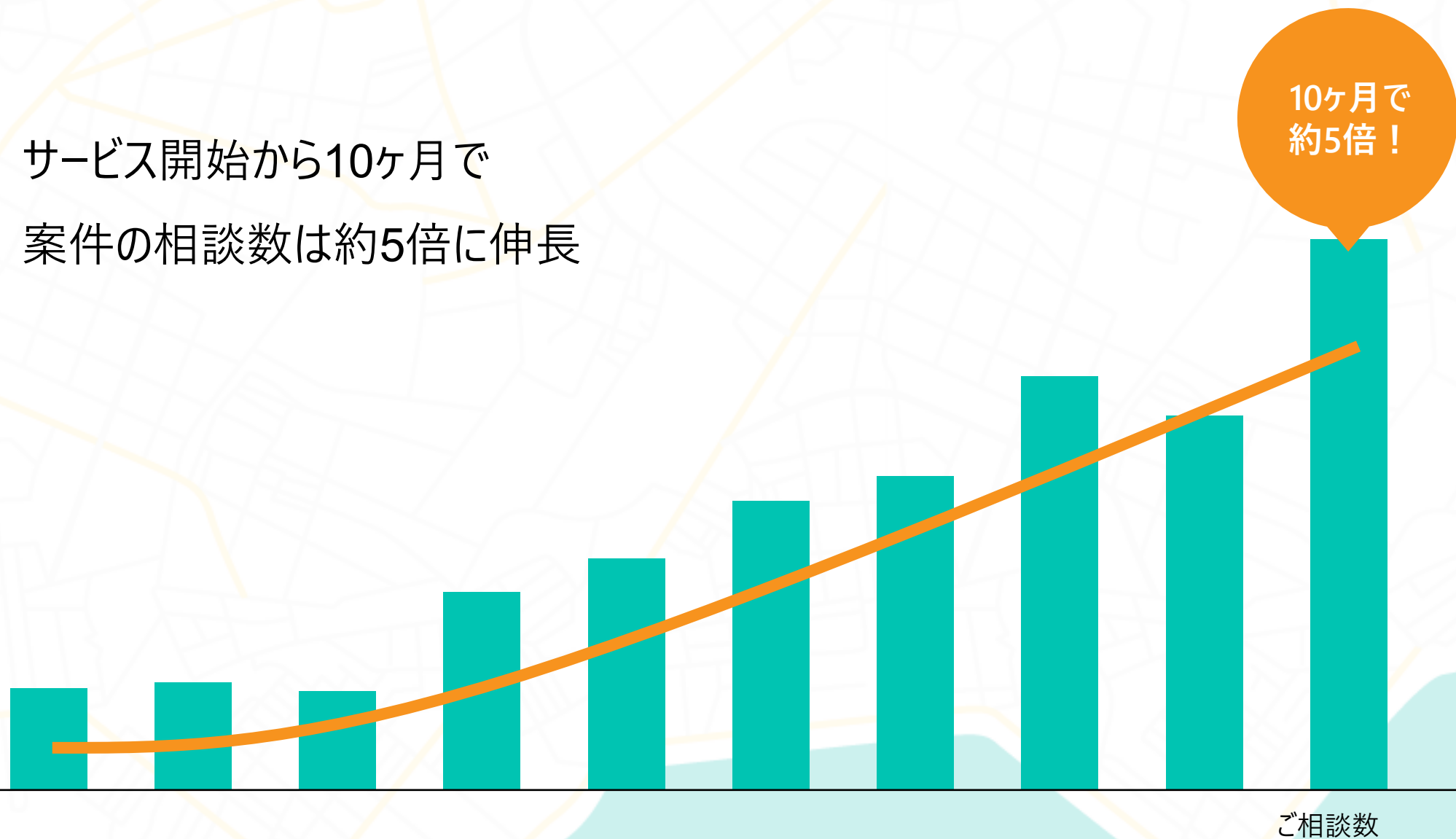
遊休化した倉庫スペースを提供することも可能で、最適な寄託案件を見つけ、眠っている資産を売上に変えることができます。

WareXは簡単な契約で、全国の倉庫を
スポット利用できるサービスです

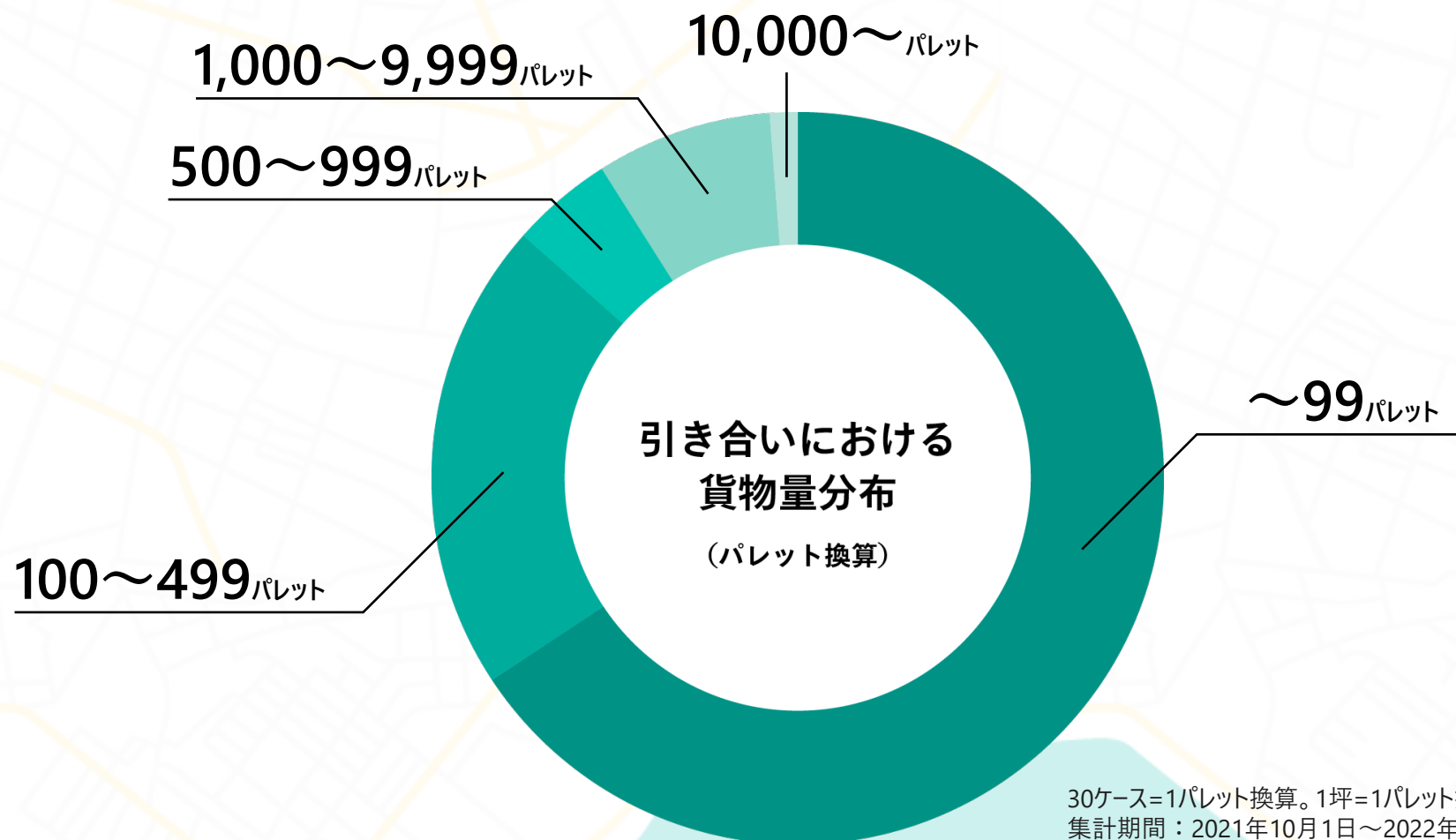


シェアリング倉庫サービスWareX（ウェアエックス）

サービス開始から10ヶ月で
案件の相談数は約5倍に伸長



小規模から大規模まで様々な引き合い



地図から全国の営業倉庫を検索可能




WareX WareXとは ▾ 事例・コラム ▾ 資料・セミナー ▾ | 倉庫提供について

電話でのお問い合わせ ☎ 050-5444-8738 ログイン 無料登録

倉庫を探す

東京 🔍

183 件の倉庫が見つかりました

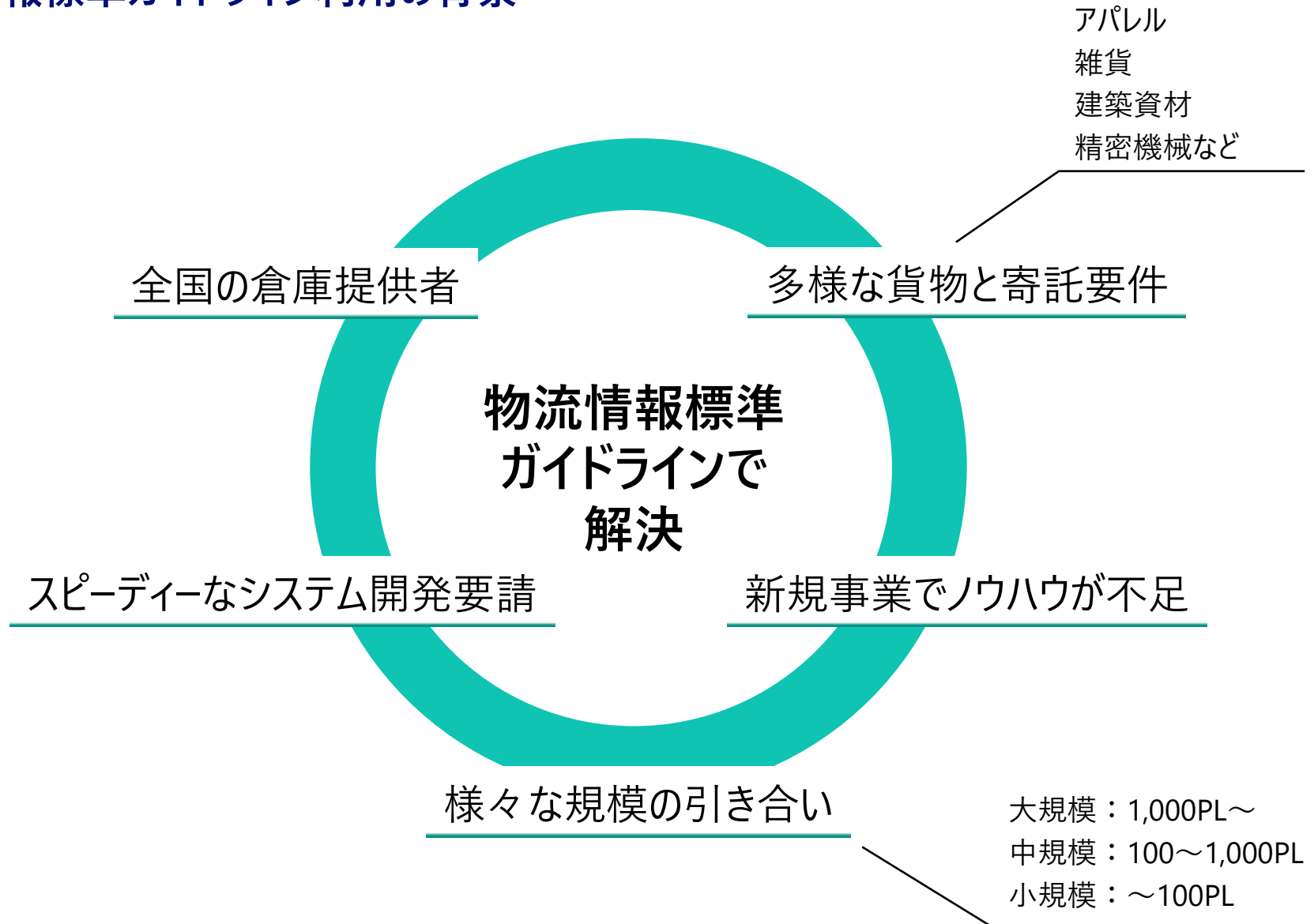
-  拠点から 10.1km
東京都港区
常温 平日 9:00 ~ 18:00
この倉庫にお問い合わせ
-  拠点から 10.4km
東京都港区
常温 平日 0:00 ~ 23:30 土日祝 OK
この倉庫にお問い合わせ
-  拠点から 10.5km
東京都港区

1分でカンタン登録！登録すると、
○倉庫の料金や詳細が見れる
○倉庫の空を一括確認できる
ようになります！

Google

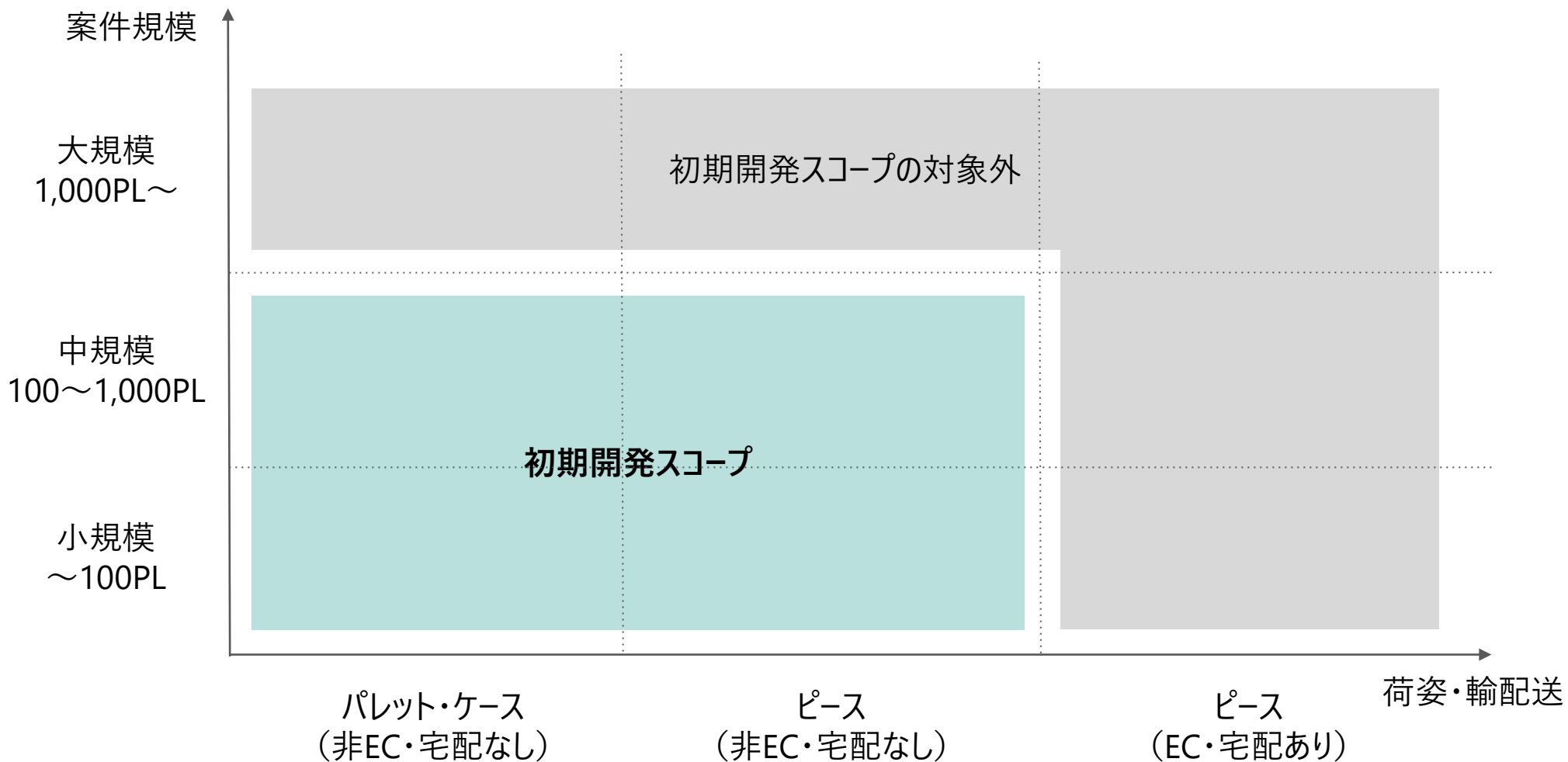
キーボードショートカット 地図データ ©2022 利用規約 地図の誤りを報告する

物流情報標準ガイドライン利用の背景



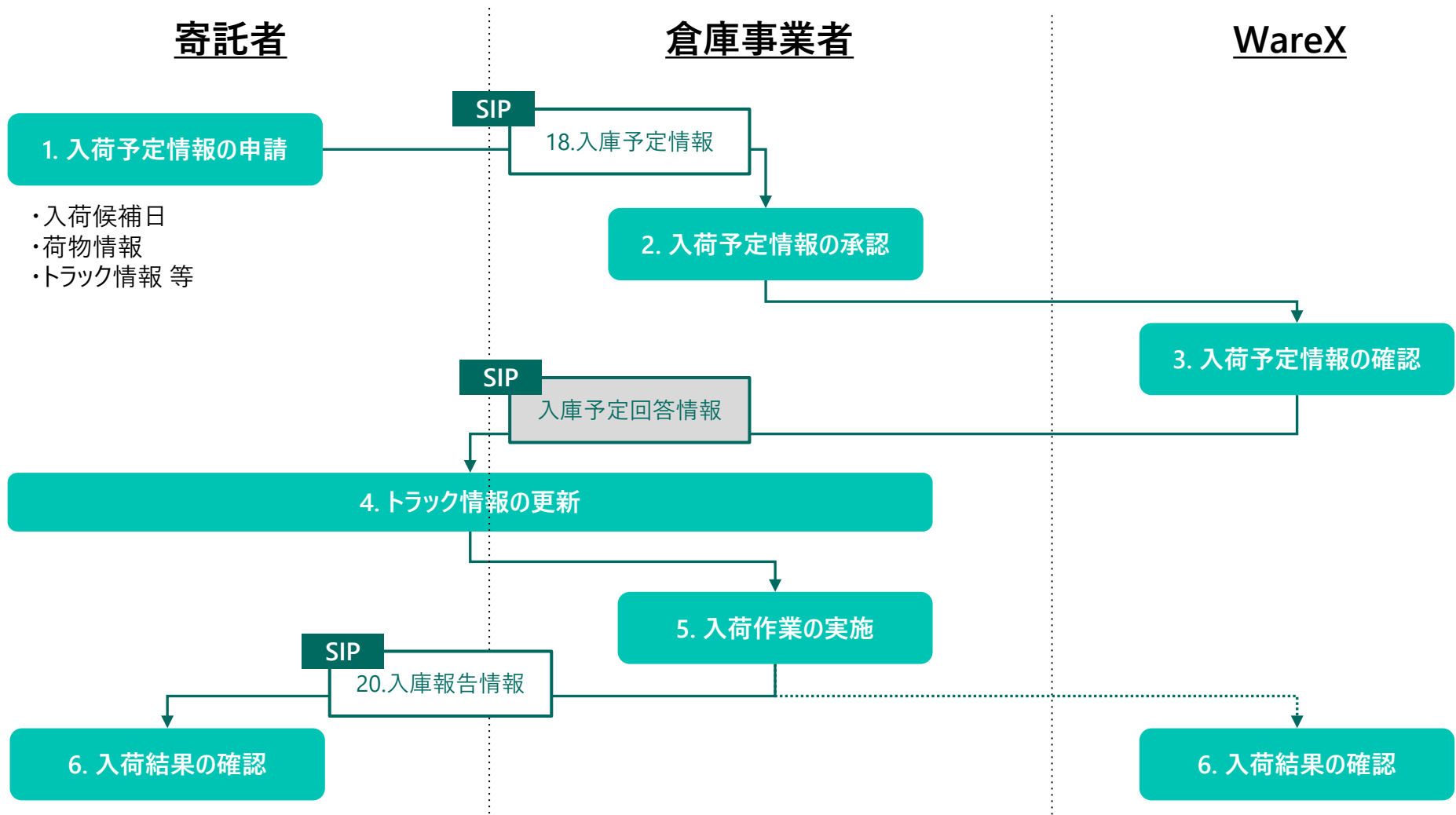
物流情報標準ガイドライン利用の流れ – 開発スコープの確定

個配がない中小規模案件を初期開発スコープに



物流情報標準ガイドライン利用の流れ – 業務プロセスとメッセージの確定

「物流情報標準ガイドライン」を参照して業務プロセスと使用するメッセージを確定



物流情報標準ガイドライン利用の流れ – 物流メッセージ標準の確認と実装 (例)

■ 「18. 入庫予定情報」の内容を確認

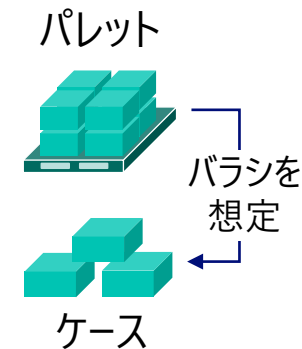
- 現状は入庫～出庫の全ての業務プロセスがWareX内で完結しているため、標準データ項目をDB設計に活用
- 「委託貨物」と「貨物明細」の関係性から、貨物のバラシ対応は「パレット→ケース」、「ケース→ピース」に対応
- 物流メッセージ標準にない項目は自由に追加可能

項番	項目名	項目名(短縮英語)	必須	キー	CD	項目定義	値の型	出現回数	備考 (親クラス)	情報公開
25	委託貨物	cns	●					1	入庫予定情報	
26	運送梱包総個数(依頼)	istd_totl_pcks_quan				運送梱包の個数単位に基づく依頼(予定)総個数	9(9)	0/1		○
27	個数単位コード	num_unt_cd			*	個数の単位を表すコード(繰り返しの外で使用する)	X(3)	0/1		○
28	運送梱包総重量(依頼)	istd_totl_weig_meas				運送梱包の重量単位に基づく依頼(予定)総重量	9(11)V(3)	0/1		○
29	重量単位コード	weig_unt_cd			*	重量の単位を表すコード(繰り返しの外で使用する)	X(3)	0/1		○
30	運送梱包総容積(依頼)	istd_totl_vol_meas				運送梱包の容積単位に基づく依頼(予定)総容積	9(7)V(4)	0/1		○
31	容積単位コード	vol_unt_cd			*	容積の単位を表すコード(繰り返しの外で使用する)	X(3)	0/1		○
32	貨物明細	cns_line_item	●					1-9999999	委託貨物	
33	明細番号	line_item_num_id	☆			繰り返しの明細情報を識別する管理番号	X(10)	0/1	☆どちらか必須	
34	個別注文番号	sev_ord_num_id	☆			発注者が注文毎に付与した管理番号(繰り返しの中で使用する)	X(23)	0/1	☆どちらか必須	
35	ロット番号(依頼)	istd_lot_num_id				商品個々又は製造期間毎などに付けた管理番号(依頼)	X(20)	0/1		
36	受注者商品分類コード	cls_of_sell_item_cd				受注者が商品を分類するために採番した管理コード	X(4)	0/1		
37	商品分類名	item_cls_txt				商品の分類を表す名称	X(20)	0/1		
38	GTIN	gtin_item_cd				単品の商品はGTIN-13、集合包装の商品はGTIN-14	X(14)	0/1		

共同配送で活用可能

明細ID ※WareX採番

50	個数(依頼)	num_of_istd_quan				運送品又は受寄物の依頼(予定)個数	9(9)	0/1		○
51	個別個数単位コード	sev_num_unt_cd			*	個数の単位を表すコード(繰り返しの中で使用する)	X(3)	0/1		○
52	商品重量	item_weig_meas				商品一個または単位当たりの重量(運量等)	9(7)V(3)	0/1		○
53	個別重量単位コード	sev_weig_unt_cd			*	重量の単位を表すコード(繰り返しの中で使用する)	X(3)	0/1		○
54	内容入り数	cnte_meas_per_pcke_meas				1個(ケース)の中に入っている内容量・重量数	9(9)V(3)	0/1		○
55	数量(依頼)	istd_quan_meas				運送品又は受寄物の依頼(予定)数量	9(11)V(4)	0/1		○
56	内容数量単位コード	cnte_num_unt_cd			*	運送品又は受寄物の数量の単位	X(3)	0/1		○
57	入り数	cnte_num_per_pcke_quan				1個(ケース)の中に入っているバラ数	9(9)	0/1		○
58	バラ数(依頼)	istd_bulk_num_quan				受寄物の依頼(予定)総バラ数又は依頼(予定)端数バラ数	9(9)	0/1		○
59	バラ単位コード	rped_bulk_num_unt_cd			*	受寄物のバラの単位	X(3)	0/1		○
60	荷姿コード	pcke_frm_cd			*	梱包の形態を表すコード	X(3)	0/1		○
61	荷姿名(漢字)	pcke_frm_name_cd				梱包の形態の漢字名称(段ボール箱・缶・袋・通箱等)	K(20)	0/1		○
62	GRAI	glb_retb_asse_id				リターナブル資産識別コード(シリアル番号を除く)	X(14)	0/1		
63	製造日(依頼)	istd_mnf_date_dttm				商品が製造された日付(依頼)	X(8)	0/1		
64	賞味期限/有効期限(依頼)	istd_vld_trm_dttm				商品の賞味期限(依頼)又は有効期限(依頼)	X(8)	0/1		
65	保管条件	trms_of_strg_txt				危険物、匂いの有無、匂い物との共存可否、共同保管する場合の要件等	K(100)	0/1		



物流情報標準ガイドライン利用の流れ – 物流メッセージ標準の確認と実装 (例)

- JSON、XMLなど、メッセージプロトコルはガイドラインで規定されておらず、利用企業に委ねられている
- 物流メッセージ標準をスクリプトでJSONに変換、システム実装に活用
 - 項目名 (英語短縮) をキーとして活用
 - 値の型をバリデーションに活用

項番	項目名	項目名(短縮英語)	必須	キー	CD	値の型	出現回数
1	メッセージ情報	msg_info	●				1
8	入庫予定	esti_inlet_cls	●				1
13	運送依頼	trsp_isr					0/1
16	運送サービス	trsp_srvc					0/1
22	納品情報	del_info					0/1
25	委託貨物	cns	●				1
32	貨物明細	cns_line_item	●				1-9999999
33	明細番号	line_item_num_id	☆			X(10)	0/1
34	個別注文番号	sev_ord_num_id	☆			X(23)	0/1
35	ロット番号(依頼)	istd_lot_num_id				X(20)	0/1
36	受注者商品分類コード	cls_of_sell_item_cd				X(4)	0/1
37	商品分類名	item_cls_txt				X(20)	0/1
38	GTIN	gtin_item_cd				X(14)	0/1
39	業界固有コード分類	shpm_item_jdr_cls_cd			*	X(2)	0/1
40	業界固有コード	shpm_item_sev_jdr_cd				X(20)	0/1
41	発注者品名コード	buy_assi_item_cd				X(25)	0/1
42	受注者品名コード	sell_assi_item_cd				X(55)	0/1
43	倉庫事業者品名コード	wrhs_assi_item_cd				X(25)	0/1
44	商品名(漢字)	item_name_txt				K(200)	0/1
45	商品略号	shrt_item_name_txt				X(20)	0/1

→
スクリプトで
自動変換

```

{
  "fields": [
    {"name": "メッセージ情報..."},
    {"name": "入庫予定..."},
    {"name": "運送依頼..."},
    {"name": "運送サービス..."},
    {"name": "納品情報..."},
    {"name": "委託貨物..."},
  ],
  {
    "children": [
      {
        "code": false,
        "comment": "※どちらか必須",
        "desc": {
          "en": "Line-Item Number. Identifier",
          "ja": "繰り返しの明細情報を識別する管理番号"
        },
        "id": "line_item_num_id",
        "key": false,
        "max": 1,
        "min": 0,
        "n": 50,
        "name": "明細番号",
        "public": false,
        "required": "maybe",
        "type": {
          "len": 10,
          "type": "string"
        },
        "type_expr": "X(10)"
      },
      {"id": "inlet_num_id..."},
      {"id": "sev_ord_num_id..."},
    ]
  }
}
    
```

項目名 (短縮英語) を
キーとして利用

値の型をバリデーションに
活用

まとめ

- 物流情報標準ガイドライン（物流業務プロセス標準や物流メッセージ標準）を活用すると、新規サービスをスピーディーに立ち上げられる
- 物流メッセージ標準では、項目定義（短縮英語）、値の型が定められており、システム実装が容易
- 倉庫内の在庫データを標準化することで、今後共同運送等への活用が期待できる